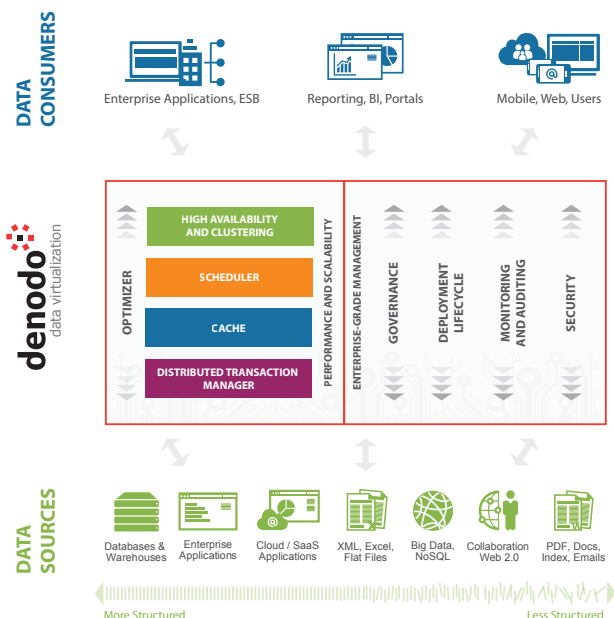


データ仮想化よくある 10 のご質問

- データ仮想化とは**
データ仮想化とは、さまざまな種類のデータソースを単一の仮想データレイヤー上に結合し、下流のアプリケーションへ、統合的なデータサービスを、リアルタイムで提供する技術です。
- データ仮想化が、なぜデータの迅速な統合に役立つのか**
ビッグデータ、Web、クラウドが隆盛を極め、多種多様なデータが爆発的に増大している今日において、企業が、利用する全てのデータをDWH上に「蓄積」する余裕はありません。データ仮想化は、データストアを物理的に複製することなく、あらゆるデータソースに存在するあらゆるタイプのデータ価値を引き出して、統合的データサービスを提供出来るため、短工期でデータ統合を実現します。
- 低コストかつ短工期でシステム開発出来る理由とは**
変更が必要になる度に、データの物理的な移行と蓄積を繰り返しているのは、コストがかかる上に、業務の停滞を招きます。データ仮想化なら、必要なときにいつでも、物理的なデータ移動なしにレプリケーションを実現します。
- データ仮想化の導入に最適なプロジェクトとは**
データ仮想化は、分散データへのアクセス、情報のリアルタイムでの取得と提供、頻繁に変更される要件への追従、デプロイ時間の短縮などを必要とする様々なプロジェクトに最適で、その有効性は十分に実証されています。BIの短期導入、顧客情報の一元管理、Webとクラウドの統合などのプロジェクトにおいて、データ仮想化は、従来の手法に取って代わるもの、あるいは従来の手法を補完するものとなります。
- データ仮想化は、Webデータの統合にも対応できるか**
Webは、巨大かつ動的で多様性の大きな、最も急速に増大しているデータソースです。Denodoのデータ仮想化のみが、Web自動化/セマンティックツールによって、Webデータや非構造化データを容易かつ信頼性高く抽出し、企業データと組み合わせることで、直ちにビジネス価値を創造します。
- データ仮想化は、どうやってデータ品質要件に対応するか**
組み込み型のツールによって、データのマッチング、変換、書き換えを手間掛けることなく行えます(サードパーティのツールによってさらに拡張可能)。これによってソース変更やデータリネージの追跡が可能となり、信頼性の高いデータをユーザーに提供できます。
- データ仮想化において、パフォーマンスの問題はないか**
最高のデータ仮想化プラットフォームである Denodo製品は、インテリジェントキャッシュ、スケジューラサポート、クエリ委譲、ルールベース/コストベース最適化、非同期実行や並行実行などをはじめとした、様々なパフォーマンス最適化技術を備えており、要求水準の高いプロジェクトでも業界トップのパフォーマンスを実現します。
- データフェデレーション製品とどのように異なるのか?**
データ仮想化は、クエリによるフェデレーションよりはるかに多くを実現します。最高品質のDenodo製品では、あらゆるタイプのソースおよびデータに対する読み書きが可能で、メタデータ、セキュリティについても高度な機能を提供します。これらにより、スケジューリングされたバッチ、キャッシュ、またはリアルタイムで、ハイパフォーマンスな仮想データサービスを提供します。
- データウェアハウスをどのように補完するのか**
データ仮想化は、複数データソースの連携による仮想データマートの構築はもちろん、データウェアハウスの拡張、移行、プロトタイプにも利用できます。Denodoのデータ仮想化は、ESB(エンタープライズ・サービス・バス)とも接続し、SOA(サービス指向アーキテクチャ)に基づいた実装についてもリアルタイムのデータサービスを提供できます。
- データ仮想化の費用とROI(投資利益率)はどの程度か**
一般的なデータ仮想化プロジェクトでは、6か月以内に投資を回収できます。費用は、レプリケーションや作り込みの場合の3分の一です。ROIは多くの場合、ハードウェア、ソフトウェア、開発および保守にかかる費用の削減によって大きく向上します。最高品質のデータ仮想化製品を使用することで、確実にメリットが得られます。

Denodo Platform アーキテクチャとそのメリット



- 全データへ簡単にアクセス
- 仮想データレイヤー
- レプリケーションを最小化
- パフォーマンスの最適化
- リアルタイム連携
- データサービスの再利用
- より簡単で柔軟な統合
- 既存ツールとの統合

導入事例

企業は、分散したデータソースで増大しつつある情報資産を迅速に統合し、リアルタイムにアクセスするというニーズを満たすため、データ仮想化の導入を急速に進めています。

以下では、Denodoのハイパフォーマンス・データ仮想化製品を導入したことで、全社データを強力に活用できるようになったお客様の事例を紹介します。



データ仮想化によって、スケジュール通りに完遂出来たBIプロジェクトが倍増しました。Denodoによるデータウェアハウスの拡張によって、コストが低減された上に、社内外から新しいデータを収集できるようになり、BIが強化されました。

BIおよびレポート

- リアルタイムレポート/分析/ダッシュボード
- 社内外の新しいデータソースへのアクセス
- データとBIのシームレスな統合
- 手間を掛けず、迅速に結果を出す
- 仮想データマートで費用を削減



Denodo製品によって、あらゆるソースにあるデータをリアルタイムで収集できるようになりました。これにより代理店の生産性が40%向上し、カスタマーサービスも改善されました。

カスタマーサービスおよびコールセンター

- 顧客情報の一元管理
- コールセンターやカスタマーポータルで利用
- コストを削減しつつカスタマーサービス改善
- 従業員のモチベーションと業務効率の向上
- クロスセリングおよびアップセリングの増加



当社はDenodo製品を介して、電気通信事業者や公益事業者のWebやクラウドアプリケーションと内部システムとを自動的に照合することで、数百万件の請求書を処理しています。

クラウドとWebのデータ統合

- Web情報を活用した洞察
- Webビジネスプロセス実行の自動化
- クラウドやSaaSアプリケーションとの統合
- 社内データとWebデータのマッシュアップ



Denodoは、まるで4GLのようです。共有データサービスを作成し、迅速かつ柔軟にアプリケーションを開発することができます。

データサービス

- 抽象化された仮想データレイヤー
- データソースから下流アプリケーションとユーザーを分離し、両者の迅速な変更を可能に
- 再利用可能なデータとして提供
- アクセス制御とメタデータガバナンス

データ仮想化の用途は無限大

- Useデータウェアハウスの拡張
- リアルタイム仮想データマート
- データフェデレーション
- MDMとデータモデルの連携
- Webデータの抽出
- Webプロセスの自動化
- ソーシャルメディアの統合
- 顧客等エンティティの一元管理